

高田本山だより

帰命のこころ

「帰命」といえば、『正信偈』

の冒頭の「帰命無量寿如来」として親しんでいますし、「帰命尽十方無碍光如来」の十字のお名号をお仏壇にお奉りされているお家も多いでしょう。

これらは南無阿弥陀仏と同じ意味として理解されています。南無はインドの原語の音写で、その意味が信順・敬礼・恭敬・帰命などと訳されているのです。親鸞聖人は、『尊号真像銘文』という書物の中で

帰命は南無なり。また帰命ともうすは如来の勅命にしたがうところなり。尽十方無碍光如来ともうすはすなわち阿弥陀如来なり。この如来は光明なり。尽十方というは、尽はつくすという、ことごとくしてことごとくみちたま

えるなり。無碍というは、さわることなしとなり。

さわることなしともうすは、衆生（私たち凡夫）の煩惱悪業にさられざるなり。光如来ともうすは阿弥陀仏なり。

と示しておられます。

この「帰命尽十方無碍光如来」というのは、インドの天親菩薩（世親）の説かれたものですが、中国の曇鸞大師以来「南無」の意味で解釈されております。しかし、「命に帰す」とは具体的にどのようなことなのでありましょうか。「帰す」は「かえる」とも解されるのですが、元の状態に戻るという意味ではありません。

「帰す」とは、さまざまな川の水が大海に帰入して一味の海水となるように、如来さまの大きな御心に、自己中心的な

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjui.or.jp



発行部数 33,000部

和讃』の曇鸞讚に次のように説かれていきます。

一切道俗もろとも

帰すべき所ぞさらになき
安楽勸帰のこころざし

鸞師ひとりさだめたり

これは、依るべき所もなく迷っている私たち凡夫に、天親菩薩の教えを説き示された曇鸞大師が、お念仏の安心（帰命）のみを定め下さったということでもあります。

教学院院長 島 義厚

今号の巻頭言を書かれた、大阪市聖賢寺住職島義厚氏が教学院院長に、就任されました。



江戸時代の国学者谷川十清（一七〇九〜一七七六年）は伊勢国津の人です。津八丁で町医を営みながら、日本の古典を研究し、塾を開いて人々を指導しました。松坂の本居宣長ほど有名ではありませんが、その実績は宣長に匹敵するといわれ、ことに日本で初めてアイウエオ五十音順の辞書を作った功績は高く評価されています。彼は若いころ有栖川職仁親王について和歌を学んでいましたので、親王の御孫が専修寺に入り、高田派第十八世円遵上人となられたことから、専修寺門室との御交誼が生まれました。しかも士清の門人河北景禎が一身田に住み、本山の寺侍となっていたことから、士清に関する文献資料が数多く専修寺に寄進され、今に伝わっています。

それらは『日本書紀』や『風土記』など日本古典の書写本ですが、特に注目されるのは、士清の名著『日本書紀通証』三十五巻と『通証補正』五冊です。『通証』は宝暦十二年（一七六二年）に開板された木版本ですが、上部欄外に細字でビツシリと書き込みがあります。景禎が士清の講義を聞いて書

高田山の
谷川士清文献が
津市文化財に新指定

平松 令三

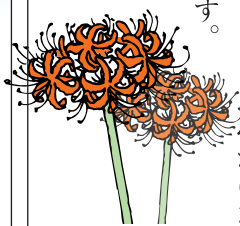


『通証補正』は刊行後に改訂を目指して作られた原稿と思われ、これまでに知られていなかった貴重本です。これらは近年に宝庫から発見され話題になっていたもので、このほど津市文化財として指定されました。

(宝物館主幹)

こぼれ話

九月といえば一年の中で一番よい季節です。このよいお彼岸にお寺に参って如来様の恩徳を讃え、そのお心を聴聞することが大切です。またお墓にまいって先祖の方々の生前お世話になったことを感謝申し上げ、ありがとうございますのひとときを過ごすことも大切であると思います。そして、七日間を仏徳讃嘆の有意義な一週間になるように心がけたいと思います。

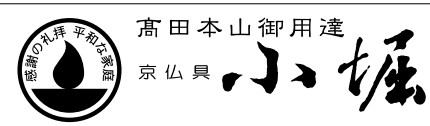


御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房・滋賀工場

無料進呈！ お役に立てて下さい
◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

讃仏会

暑さ寒さも 彼岸まで 秋彼岸仏の種まく日かな

秋のお彼岸ともなりますと、真東から出て真西に没する今年の猛暑もうそだったかのような涼しいこの頃であります。野や道には彼岸花が咲き、秋のこの時が最もふさわしい。そして日の沈むところを極楽浄土と念じよう」と教えられました。

彼岸と言えば、一般に春分・秋分の日を中日としてその後七日間に彼岸会をとめます。高田本山ではこの彼岸会のことを讃仏会といつて七日間厳修します。

彼岸という言葉は、古い記録によると大同元年(八〇六年)持統天皇の頃に一週間ほどお勤めされたようです。また、先祖供養の法会と庶民信仰が合わさって、日本独自の彼岸会になったといわれています。インドや中国ではこの中日に太陽が、真東から昇って真西に没することから西方十億土のお浄土をおもい、往生浄土を願っておこなわれたものと考えられています。

生死の苦海ほとりなし
ひさしくししづめるわれらおは
弥陀の悲願のふねのみぞ
のせてかならずわたしける

「生死の苦海」が「此岸」であり、「弥陀の悲願のふね」で渡してくださる所が「彼岸」であります。安らかな所です。つまり「お彼岸さん」は此岸(このきし)でうろうろして迷っている私たちが、仏様の教えを聞いて、彼岸(かのきし)への道をたずねるよい機会です。お寺まいりをして、如来さまの恩徳を讃えお礼を申しあげる。またお墓まいりをして、先祖の方々にお世話になったお礼を申し上げることも大切です。仏徳讃嘆、お礼感謝のひとつでありたいものです。

中国の善導大師は、「私たちは迷いのこの世を離れて仏の国に生まれたいと願い、その仏の国を思うのは、太陽は

御影堂通信

既に皆様のお手元にも、ご住職様から配布されたと思いますが、御影堂平成大修理のパンフレットが出来上がりしました。

御影堂平成大修理も瓦の葺上げが終了いたしました。現在は、木工工事が主となります。

「本山だより」が皆様に届く頃から素屋根の解体が始まり、来年のお七夜には、御影堂の屋根がご参詣されます皆様にご覧いただけることになると思います。

(原稿は7月に作成)



お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

ISHIEN STONES
株式会社 ストーンズ 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーヨイイン

高田本山  御用達

株式会社

井筒法衣店

本店 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

電話 (075)351-1234代

フリーダイヤル 0120-075-720

Q & A

七高僧

天親菩薩とは

七高僧第二祖天親菩薩は、四〜五世紀頃北印度ガンダーラに生まれた方です。

印度名をヴァスバンドゥといい、また世親ともいわれます。「釈迦の教法おおけれど」のご和讃で讃えられる祖師です。

初め小乗仏教を学ばれ、小乗の立場から大乘を批難誹謗していましたが、それを愛いた兄無著の叱責とすすめで大乘仏教に転向され、その後大乘仏教の興隆に勤められました。その著作は『浄土論』等の論をはじめ、多くの論・経の御解釈を著わされ、「千部の論主」といわれます。その主著『浄土論』の中の仏徳を讃嘆した偈頌(詩)の始めに、

「世尊我一心 帰命尽十方 無碍光如来 願生安樂国」と菩薩ご自身が阿弥陀如来に一心に帰命して弥陀の浄土に往生したいと願われました。

この信心には、仏の智慧・慈悲の徳が具わっていますから信心一つで一切衆生が救われるのだと、煩惱をことごとく

そなえた私達に本願信ずるところをすすめています。

『浄土論』は、その注釈書として曇鸞大師の著わされた『論註』とともに聖人が教義の根本とされたものです。

聖人は、この浄土論の教えを受けて和讃に、

「本願力にあひぬれば、むなくしくすぐるひとぞなき、功徳の宝海みちみちて、煩惱の濁水へだてなし」と、如来の本願力を疑いなく信じて、本願力の働きに任せきって念仏すれば、お名号には功徳が海水のように満ち満ちています。

だから、欲望に汚れたものも差別なく同化してしまい人生をかいたく終わることがなく、浄土に生まれることが出来る、と讃嘆しています。

天親菩薩は、浄土往生を願い、二心なく阿弥陀仏に帰命して本願力を疑いなく信じて、本願力に任せきって念仏すれば必ず真の浄土に生まれると、真宗の教えの根本を示された祖師です。(数学院第三部会)



お取り越し

真宗寺院にとって最も大きな法会は、御開山親鸞聖人の報恩講です。本山では一月九日のお昼から十六日のお昼まで七昼夜厳修され、お七夜さんの名で親しまれているのはご存知だと思います。

本寺や別院・一般寺院では本山より早く、各お寺で報恩講を行うのが一般的になっています。このことを「お取り越し」と言います。報恩講は、近くのお寺からご住職が集まっ

て、お勤めをすることが多いので、多いところでは二ヶ月間くらい、毎週どこかのお寺で報恩講が勤められている地域もあります。

ここでは本寺と別院の報恩講の日程を紹介します。

北海道別院

札幌市清田区平岡三条三丁目 九四―三

十月三日 初速夜
午後一時三十分

十月四日 晨朝

午前七時三十分

日中 午前十時三十分

大速夜 午後一時三十分

初夜 午後四時三十分

十月五日

晨朝 午前七時三十分

満日中 午前十時三十分

布教使 愛知県浄泉寺

戸田信行師

本寺専修寺



栃木県芳賀郡二宮町高田二四八二

十一月十五日

日中兼速夜 午後一時

お裏方様御親示

初夜 午後六時

お裏方様御親示

十一月十六日

晨朝 午前七時

御参廟 午前九時

満日中 午前十時三十分

法話 北畠舜諒輪番

福井別院

福井市花堂南二丁目十一三五

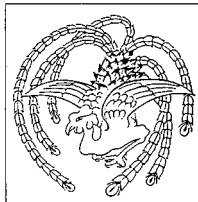
十一月十四日

日中 午前十時

速夜 午後一時

初夜 午後七時

十一月十五日



仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店



達推御用 御影石

高級御影石専門店



御影石材株

0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前) ☎059-224-1700(代)

リレー法話

勿体無い

鈴木 紀生

五歳のときでした。母のまねをして、仏壇の花瓶の花を触ろうとしたら、誤って香炉を倒かし、中の灰をぶちまけてしまいました。すぐさま母が片付けてくれましたが、「仏さんの灰をこぼしたら勿体無いですよ。ごめんなさいと、よく拝みましょう。」と言われ、二人そろって手を合わせ、深々と頭を下げたことがあります。勿体無いの一言は、仏様に対して大変申し訳ないことをしてしまった、また、仏様は大事にしなければいけない、仏様は偉い方や、と子供心に染み込みました。

現代は、大量生産・大量消費システムの影響で勿体無いが隠れてしまっています。欲しい物がいつでも簡単に入手できる便利さが、商品を作り、流通させた多くの人々の御蔭によるものだということをお忘れさせているのです。それと同時に、科学・技術の進歩は、人間は何でも実現させることが可能であるという思い上がりを植え付けてしまいました。私たちが、自分の力でこの世に生まれたのではなく、人智を超えた大きな力によって生まれさせていただき、今ここに生かさせていただいていることに対する感謝の心を蝕む結果になっ

ているのです。阿弥陀さまの智慧の眼には、阿弥陀さまからかけられた願いが気付けない哀れな人間の姿が映し出されているに違いありません。

しかし、宗祖親鸞聖人は、この哀れな私たちでも、救われていく道があることをお示しいただいたのでした。ご聖人は、先ず人間が本質的に持つ弱さ・脆さを素直に認めるところから出発しましょうとおっしゃいます。それは、思い上がりという心の着物を脱ぎ捨てて我執から抜け出すことであり、純真であった童心に返るような、内心の転換を意味するものです。

勿体無いの復活からお念仏が溢れ出て、ご信心につながり、感謝へと発展していけたら素晴らしいと思うのですが、口では簡単に言えても実行は容易ではありません。阿弥陀さまからの尊い回向を未だに気付けない未完成な私たちであるからこそ、ご聖人は、「それでも大丈夫ですよ。お任せして、与えられた命を精一杯生きていきましよう。」と、次のように、励ましていただいているのです。

無明長夜の灯炬なり
智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり
罪障おもしとなげかざれ
(正像末法和讃)

勿体無い、勿体無い。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。
(一志郡 一志町波瀬浄福寺住職)

晨朝 午前七時
日中 午前十時
逮夜 午後一時
初夜 午後七時
十一月十六日
日中 午前十時
布教使は未定です。

関東別院

東京都大田区西六郷四丁目二二
十一月十一日
十一月十九日
午前法会 午前十一時
法主殿御親教
午後法会 午後一時
法主殿御親教

京都別院



京都市右京区鳴滝音戸山十一三四
十一月二十七日
日中 午後一時
布教使は未定です。

神戸別院

鈴鹿市神戸二丁目三三四一
十二月十四日
日中 午後一時

初夜 午後七時
十二月十五日
晨朝 午前七時
日中 午後一時
初夜 午後七時
十二月十六日
晨朝 午前七時
日中 午後一時
法主殿御親教

名古屋別院(平成十八年)



名古屋市西区那古野一丁目二十番五号
二月十四日
逮夜 午後一時
初夜 午後三時頃
二月十五日
朝事 午前十時
日中 午後一時
初夜 午後三時頃
二月十五日
朝事 午前十時
日中 午後一時
法主殿御親教

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)
本山会席

各種献立よりお選びいただけます。
◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせ・ご注文は

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



人気商品 高田本山流 精進料理

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

※ご自宅までマイクロ/スでのご送迎(5名より14名様まで)

世の中 安穏なれ 仏法 ひろまれ

御本山絵所

絵所頭 安川如風 よりご挨拶

昨年4月に御本山に創設されました絵所の「絵所頭」を拝命いただきました、安川如風と申します。本山御用絵師として、一層の努力を重ねていく所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

〒514-0114 三重県津市一身田町2819 TEL.059-232-4171 FAX.059-232-1414 (本山宗務院内 絵所)



ご和讃のお話

佐波 真

決定の信をえざるゆへ

信心不淳とのべたまふ

如実修行相應は

信心ひとつにさだめたり

(曇鸞和尚三十二首)



これまで、お念仏を申すその心について、三不信ということでお示しくございました。このご和讃はそのまじめになります。

特に先の二首では、「信心あつからず」から「決定の信をえざるなり」と示されています。

ここでは、「決定の信をえざるなり」を承けて、「信心不淳」つまり「信心あつからず」に戻ってきたわけでありませう。

さて、改めて、なぜこのよきな問題が出てきたかを考えてみますと、それは如来の光明と名号が、私たち衆生のすべての闇を破り、一切の願

を満たすと教えてくださっています。一向に闇が晴れない。その理由を三不信と示されたわけがあります。

このような三不信という形で、私たちに問いかけていることは、如来に会う、み教えに会うということでもあります。

「決定の信をえざる」とは、信心が定まらないということでもあります。

私たちは人生の様々な出来事に遭遇し、改めて自らの人生の歩みを振り返るのではありませんか。

そして自らの経験や力では何ともならないときに、他の

人に相談したりします。宗教に関心を持つときも、

そんな時ではないでしょうか。それこそ、思いがけないことばかりの人生を何とかしたい。

そんな切実な思いから、仏や神に関わりを持つとするとするわけでしょう。

実際、そのような私たちの願いに応じて、様々な教え、宗教があるのです。

しかし、そのようにして宗教に触れても、何ともならないこともまたあるでしょう。

その時に信仰対象に関わる心、すなわち信心が問われるわけです。

私たちは、生涯の歩みの中で、その時その時の状況に応じて、願いが変わる。あるいは一つ満たされると、また新たな願いを持つ、それにともなつて信仰の対象、内容が変わっていくのであります。

それで、信心が定まらないのであります。

次の「信心不淳」とは、私の願いを持つて、信心としていくことでもあります。

そのような信心が問題となつてくるのは、私の願いが叶わない時でありましょう。

念仏を称えるならば、心の「闇を破り、一切の願いを満たす」

というけれども、実際にはそのようにならない。

思いもかけないことが起こる、それこそ私の思いのほか、という現実、すべては移ろいゆく、そのことを、仏教では諸行無常と教えられております。

そのことに目を塞いで、思いがけない出来事を何とかしたいという思いから、自分以外の他なるものに救いを求めていくありかた。そのことを「信心不淳」と教えて下さっています。

しかし、そのようにしか、求めることができない私たち人間の、その救いを求める心を通じて、大切なものを見抜かれたのであります。

それは、今の人生に疑問を持ち、一步を踏み出さない限り、見えてこないことでもあります。

そのことが次にある「如実修行相應は 信心一つにさだめたり」なのであります。

まず「如実修行相應」とは、先のご和讃に「不如実修行」と示されて、三不信が出てきました。

この三不信というあり方が私たちが救いを求める基本的なあり方なのです。

そのことをくぐらなると、如実

修行とは何か、はっきりしないのです。

つまり、人生とは何か、どこへ向って歩んでいくかが、課題となるところに、この三不信という問題が出てくるのです。

私たちは、それぞれの人生、一人ひとり生い立ちも、境遇も違っているわけです。そんな中で、一人一人、生きる目的も意味も求めるものも違ってきます。

しかし、そんな私たち人間に対して、念仏ひとつ、信心ひとつということはどういうことでしょうか。

私たちに突きつけられる現実、時にあまりにも苛酷で、とても受け止めることができないことがあります。

そのような、一人ひとり起こってきた問題を縁として、人として生きていく限り、避けることができないことに目を開かせていく。そこには悲しみの眼をもつて建てられた如来の本願と働きかけ(如実修行)

があり、そのことに気づき応答していく道が信心一つなのであります。

合掌

(多気郡多気町明通寺衆徒)

紅葉堂法会



本山の境内から安楽庵に向かう途中に、紅葉堂という小さなお堂があります。このお堂が建てられたのは、こんないわれがあります。

高田本山山内には、本山名物と言われるような大きなみみの木が生えていました。しかし江戸時代後期文政八年（一八二五年）に、遂に枯れ果ててしまいました。係の者がお庭の橋材にでもしようかと伐採の許しを乞うたところ、高田派十九世円祥上人（一七八八年～一八三七年）は「それもよいが、それだけでは可哀想だ。あの木は南北より参詣に来られるお同行の目印であの木を見て、ご本山が近づいたことを知り、お念仏に力づけられて参つてくれた。仏縁の深い老木ゆえ、私は仏像を刻んで残したいと思っている。」と仰せられました。

そこで小古曾願誓寺の義道という方が、円祥上人のご身長と同じ大きさの阿弥陀如来を彫刻して、この仏様を中心

に建てられたのが紅葉堂です。しかしこのお堂がお住居に遠くて、朝夕の勤行にお通いになれないことを上人は申し訳なく思われて、浄土三部経の経文を小石に一字一字書写されて、お堂の傍らに埋めて、朝夕の読経の代わりされました。普段は入ることが出来ない紅葉堂ですが、十一月十八日十時半からは紅葉堂法会が勤まり、どなたでもご参詣いただけます。

広く一般に通知していません。ことあると、例年は法主殿ご臨席のもと、各講の講員さんや高田婦人会の方々、職員など本山関係者など、ご近所にお住まいの方など、法会があることをご存知の方が集まってお勤めされていますが、枯れてしまった大木を偲ぶ、円祥上人の優しいお気持ちからはじまったこの法会、年一度の法縁です。皆さんも是非ご参詣下さい。



第三十五回お七夜献書展

- ① 作品の受付
宗務院お七夜献書展係
- ② 提出期限
平成十七年十一月三十日（必着）
- ③ 出品料
一点につき三百円

- 課題
幼稚園：こい
- 小一 ……てら
- 小二 ……もん
- 小三 ……いのち
- 小四 ……大宝海
- 小五 ……念仏高田
- 小六 ……信心歓喜
- 中一 ……念仏正信偈
- 中二 ……現世利益和讃
- 中三 ……正像末法和讃
- 高校・一般
(ア) 功勳広大 智慧深妙
光明威相 震動大千

(イ)たとひ大千世界にみくらむ火をもすぎゆきて佛のみ名をきくひとはながく不退にかなふなり
出品については、宗務院教学部までお問い合わせ下さい。



清掃奉仕ありがとうございました

- 汗を流して清掃奉仕
 - 6月 西岸寺 遍照寺 正福寺
本念寺 光輪寺
 - 7月 法林寺 常德寺 乘願寺
教安寺 心光寺 西願寺
林照寺
 - 8月 永福寺 唯願寺 西法寺
願正寺
- 以上十六カ寺のみなさんでした。ありがとうございました。



稻城選惠著

人生晩年の随想

つれづれの感想、五濁悪世、仏教と平和、人間は人間である、中学生の宗教心等さまざまな社会問題、国際問題が生起、その随想を語る 定価945円税込

大田利生著

香りを聞く

香りを聞き・光に遇う、菩薩のころ・凡夫のころ、一つの言葉に思う、親鸞聖人のころを学ぶ、經典の学び方等心になれる法話 定価1260円税込

杉本正信著

捨ててこそ

—今なぜ在家仏教なのか— 祈禱呪術や祖霊祭祀などの民俗宗教に占領せられてしまっている高野山真言宗の僧籍を返上し、寺の住職を辞し、阿弥陀仏の本願念仏を撰びとった心の軌跡・その道程 定価2415円税込

無名会同人編

仏と人 35

平成の鬼の夜話 太田信隆／不戦の像 森 正隆／他力不思議 梯 實圓／まだ娑婆か 高田慈昭／最後の言葉 足利孝之／足るを知るといふこと 源 義春／夜まわりもしなはれや 南部松雄 定価410円税込

梶濱亮俊訳

チベットの民話

—中央チベット地方の民話集— 定価3990円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 075・3371・6651
FAX 075・3351・9033
振替 010200・4・9336

これからの本山諸行事

諸法会

讚仏会

九月二十日〜二十六日

高田派のお彼岸は、み仏のお徳を讃え、ご先祖の恩を謝し、法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会であり讚仏会とよばれています。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がございます。

春のお彼岸にも、同じく讚仏会が勤まります。

資堂講法会

十月一日〜三日

正式には永代資堂講法会と言われ、普く有縁の方々が加入できる講として設けられ、ご教化の一端も担っています。

法会には講加入者に案内が送られ、法名が記載された過去帳を中央卓に置いてお勤めされます。

納骨堂法会

十一月三日・四日

宗祖親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、私たちの大切な人も聖人の御廟のそばに葬ってあげたいという願いから、本山に亡くなられた方のご遺骨(分骨)を納める納骨の習慣が出来ました。

昭和三十八年には、個人の納骨壇にご遺骨を納める、納骨堂が造られました。

法会では本堂でのお勤めに先立って、法主殿または法嗣殿とともに多くの僧侶が山内を行列で進み、

御廟と新納骨堂・第二納骨堂をお参りされます。

納骨堂加入者約二万人に案内状を送付しますので、非常に多くの参詣者で山内が賑わいます。

秋法会

春の千部法会(正式には講千部法会)と同じく、進納所で講千部に加入いただいた方をご招待して勤まる法会です。本山内の賜春館(明治天皇が宿泊された建物)で法主殿のご対顔をあおいだ後、本堂にて参詣します。

行事

第四十一回檀信徒研修会

十月二十四日 午前九時半開会

高田派寺院のお同行さんを対象にした学習会です。

午前は青少年会館にて全体研修を行い、午後からは、いくつかの班に分かれて分散会をします。

ただいま参加者受付中です。詳しい内容、お申し込み方法は本山宗務院までお問い合わせ下さい。

教師会特別研修会

十月二十五日 午前十時開会

普段は有志の高田派教師で構成された会員を対象に、月例会等を催している教師会が、一般の僧侶や檀信徒にも呼びかけて行う開法の会です。

今年の講師は愛知県豊田市の真宗大谷派守銅寺住職渡邊晃純先生です。

事前の予約等は必要なく、聴講は無料です。ぜひご聴聞下さい。



教学院研究発表大会

十月三十一日 午前十時開会

高田派の研究機関、教学院には第一から第五まで5つの部会があり、各部会ではそれぞれのテーマを持って研究を行っています。当日はそれぞれの部会からの代表5名に、応募された一般の僧侶が、二十分の持ち時間で行ってきた研究について発表を行います。また午後には講師を招いて特別講演も行われます。今年のご講師は、(財)反差別人権研究所みえ事務局長 福田信男先生です。聴講は無料です。ぜひご聴聞下さい。

秋季婦人連合研修会

十一月八日・九日

別院や一般寺院には女性お同行の集まり、婦人会や女人講があるお寺があります。それら各お寺の婦人会や女人講の集まりが高田派婦人連合研修会です。毎年春と秋の二回、一泊二日で法式作法や法話、講演などを聴聞したり、座談会でコミュニケーションを深めたりし

ます。

近年は写経をしたり(二〇〇五年春)、小旅行をしたり(二〇〇四年秋)、胡麻豆腐を作ったり(二〇〇四年春)等、色々な企画も考えています。

参加ご希望の方は宗務院教学課へ申し込んでください。

編集後記

本山宗務院にいますと、お同行さんから色々な質問のお電話をいただきます。その中でも多いのが、地域の慣習に関する相談です。

「親戚が、『早く納骨に行け』と言っています。『近所の方は『まだ早い』と言っています。』とか「初盆のむかえ方が、実家と全く違って困っています。」等々。聞いていて同じ三重県内でも、5km離れたら私の常識が通用しないことに驚かされます。慣習に関してはご自身だけで悩まず、まずお世話になっているお寺に相談してください。

寺院名

太鼓門修理中



境内東側の太鼓門の修理に取りかかれました。通行できない場合がありますのでご注意ください。

印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県安芸郡河芸町上野 2100

(059)245-3111(代)

F A X (059)245-1177